

天国の特別な子ども

エドナ・マシミラ (Edna Massimilla)

会議が開かれました。

地球からはるか遠くで。

(地球からはるか離れた天国で、会議が開かれました。)

“また次の赤ちゃん誕生の時間ですよ”

(次の赤ちゃんが生まれる時間ですよ！)

天においでになる神様に向かって、天使たちは言いました。

(天使たちは、続けて言います))

この子は特別の赤ちゃんで、たくさんの愛情が必要でしょう。

この子の成長は、とてもゆっくりに見えるかもしれません。

もしかして、一人前になれないかもしれません。

だからこの子は、

下界で会う人々に、とくに気をつけてもらわなければならないのです。

もしかしてこの子の思うことは、なかなか分かってもらえないかもしれません。

何をやっても、うまくいかないかもしれません。

(この子は、走ったり、笑ったり、ほかの子のように遊べないかも知れません。)

ですから、わたしたちは、この子がどこに生まれるか、

注意深く選ばなければならないのです。

この子の生涯が幸せなものとなるように、

どうぞ神さま

この子のために、すばらしい両親をさがしてあげてください。

神さまのために特別な任務を引き受けてくれるような両親を。

(神さま、どうぞさがしてあげてください)

その二人は(両親は) すぐには気がつかないかも知れません。

彼ら二人が自分たちに求められている特別な役割を。

(すぐには気付かないかも知れません)

けれども、天から授けられたこの子によって

(彼らは)ますます強い信仰を、より豊かな愛をいただくようになることでしょう。

やがて二人は(両親は) 自分たちに与えられた

特別な神の思し召しを悟るようになるでしょう。

神から贈られた この子を育てることによって。

柔和で穏やかな二人の尊い授かりものこそ
天から授かった特別な子どもなのです。

(彼らの柔和さや穏やかさは、天からの特別な子どもを与えられ、その子を育てることによって与えられる、神さまからの尊い賜物なのです。)

(大江裕子訳)「先天異常の医学」木田盈四郎著 中公新書より
(()内は、小鮎付加)

(以下、玉井氏より)

聖書、マタイによる福音書5章14節以下には、このような言葉があります。

「あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。また、ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。」

(聖書のなかで、わたしが一番好きなところです。)

「あなたがたは世の光」というところの「あなたがた」を、「障害を持った子ども」に置きかえてみて下さい。「障害を持った子ども」たちは「世の光」ということになります。そのような「光」に照らされると、わたしのような親をはじめとして、たいいていの人々は逃げ隠れすることができなくなってしまいます。それくらい強烈なメッセージを持った、そういう存在なのです。

そういう子どもたちですから、升の下に置いたりするような人はいなくなって、目立つところに置くわけです。

そうすると、いろいろな人を照らしてくれます。障害を持った子どもたちが、その子なりに光輝くように、わたしたちは手助けをしないといけないということでもあると思います。わたしたちが、実は「光」である「かれら」に助けられているのです。

わたしはこの個所を読んだときに、ああこの「光」とは、うちの「拓野」をはじめとするような、障害を持った子どものことなんだと思いました。

ほんとうにわたしにとっては、かれが「光」ですし、彼の「光」にいつでも照らされています。まぶし過ぎて、まともに顔を見られないような時があったりします。

(玉井真理子「てのひらのなかのいのち」「喜びのいのち」新教出版社より)

玉井真理子氏は、ダウン症の長男を含めて、4児の母。

信州大学医学部保健学科の教員。臨床心理士でもあり、信州大学医学部附属病院遺伝子診療部のスタッフを兼任。専門分野は、心理学と生命倫理学が接する領域。

出生前診断の問題点を探るなど、ご自身の体験を通して、いのちをまもり育むための活動をしている。

Heaven's Very Special Child

by Edna Massimilla

A meeting was held, quite far from earth
"It's time again for another birth"
Said the Angels to the Lord above,
"This special child will need much love"

Her progress may seem very slow,
Accomplishments she may not show
And she'll require extra care
From all the folks she meets down there.

She may not run or laugh or play
Her thoughts may seem quite far away
In many ways she won't adapt,
And she'll be known as handicapped.

So let's be careful where she's sent
We want her life to be content

Please, Lord, find the right parents who
Will do this special job for You.

They will not realize right away
The leading role they're asked to play

But with this child sent from above
Comes stronger faith and richer love.

And soon they'll know the privilege given
In caring for this gift from Heaven.

Their precious charge, so meek and mild
Is heaven's very special child.

エドナさんは、牧師夫人でした(2002年、85歳)。娘のルーシーさん(43歳で召天)がダウン症で生まれたおかげで、自分には、特別な助けを必要とする子どもたちのための詩を書く能力が与えられていると思ったてという。現在も詩や歌のほかに、ゴスペル音楽も手がけている。